

# teniteoクリニック

子どもの症状別に、気をつけたいポイントやお家で出来る正しい対処法を先生に教えて頂きます。

今月のテーマ

## 中耳炎

<対象年齢 / 0～6歳>

季節の変わり目に気をつけたい  
子どもの中耳炎

### 中

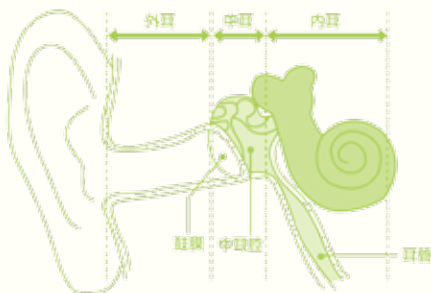
耳炎は「耳に水が入ることで中耳炎になるので、プールや海に入る機会が増える夏に多い」と、一般に思われがちですが、実は耳に水が入ることで中耳炎になるケースはほとんどなく、多くは風邪が原因のものです。そのため中耳炎は夏というより、風邪をひきやすい冬や季節の変わり目に多くなります。特に子どもがかかりやすい代表的な中耳炎としては「急性中耳炎」と「滲出性（しんしゅつせい）中耳炎」の2種類があります。急性中耳炎は、風邪を引いた時に急に耳が痛くなったたり、耳だれが出ることもあるもので、3歳以下の7、8割が経験する病気です。赤

ちゃんの熱がなかなか下がらない時、不機嫌でしきりに耳を触る時には、急性中耳炎を疑ったほうがよいでしょう。滲出性中耳炎は、風邪や副鼻腔炎（ちくのう症）などで、鼻と耳をつなぐ管が詰まることで換気不十分となり、鼓膜の奥の空間に体液が溜まるもので、痛みはあまり感じません。どちらも投薬治療がメインですが、滲出性中耳炎の場合、治療が長引くケースもあり、糸巻きのようなチューブを鼓膜に入れる手術を行うこともあります。安易な自己判断で治療を中断すると、症状が悪化し、後遺症で難聴が残ることもあるので、完全に治るまでしっかりと通院しましょう。

## 耳・鼻と中耳炎

中耳炎は、軽度であれば、自然治癒することもあります。悪化すると難聴など別の病気になることもあります。早い段階から治療を行い、完治までしっかり診察を続けましょう。

### 耳のしくみ



耳は外耳、内耳、中耳に分かれており、鼻の奥と耳管で繋がっています。中耳炎は、風邪によって鼻の奥で増殖した細菌やウイルスが耳管を通して中耳腔に感染することでおこります。

### 急性中耳炎 — 中耳腔に黄色の膿が貯まる —

#### ●自覚症状

耳の痛みがある、耳だれがある、耳をしきりに触る、耳の詰まった感じがある、食欲不振、機嫌が悪い、泣き止まない、熱がなかなか下がらない(特に乳幼児の場合)など



#### ●気をつけたいこと

風邪を引いて鼻水が出ているとき、吸引器で吸ってあげる。強く吸いすぎないように注意。

おしゃぶりや指しゃぶりは、中耳炎のリスク要因となるため注意。

保育園に通っており、何度も風邪をうつされる場合、思い切って休園することも検討する。

風邪を引いたら、早めに耳鼻咽喉科専門医を受診する。以前中耳炎になったことがある子は、必ず受診する。

### 滲出性中耳炎 — 中耳腔に滲出液(体液)が貯まる —

#### ●自覚症状

耳はあまり痛くないが、耳の詰まった感じがする、音が聞こえづらいなど

#### ●気をつけたいこと

急性中耳炎が十分に治らず、滲出性中耳炎になるケースが多いため、しっかり完治するまで治療することが一番。

慢性疾患のため、治療が長期化するため、根気よく通院すること。



#### ●監修 内藤孝司先生



子どもが喜んで来てくれる病院となるよう、アットホームな雰囲気作りを心がけています。体の不調を取り除くために必要な治療をしっかりと行っていきます。

#### 終みみはなのクリニック

愛知県大府市柘山町3-315 ☎0562・46・3341

◎日・祝、土午後 <診療時間>耳鼻咽喉科/月～金9:30～12:30、14:30～18:30、土9:00～13:00

※その他の科の診療時間は病院HP (<http://hiragi.org>) を参照。

終みみはなのクリニックの中耳炎サイト: <http://chuujiyen.org>

